



上越地区労連主催のメーデー集会在1日、3年ぶりに行われました。ロシアのウクライナ侵略という事態の中でのメーデーですので、挨拶では、平和を求める声が多くなりました。日本共産党からは五十嵐上越地区委員長が挨拶、平和の課題や県政、国政での市民と野党の共同の推進などを訴えました。イラストは地区労連の布施議長が挨拶しているところです。

今回の集会では、参加者はいつもよりも少なかったものの、再建したばかりの国賠同盟（治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟）や誕生したばかりの上越ユニオンの代表が決意表明したのはうれしいことでした。その他、上越9条の会の代表や新婦人の会などの代表も決意を表明。全体として、元気の出る決意表明が続きました。

平和を願ってメーデーに憲法フェスに

3日、高田城址公園のおほりのそばのスポーツ広場で行われた「あおぞら憲法フェス」に行ってきました。梅谷守衆院議員、米山隆一衆院議員、それに枝野幸男衆院議員が登場するというのもあって、大勢の市民のみなさんが参加していました。

梅谷議員は「憲法をいま一度理解し合おう、学び合おう。いま、一番の懸念は憲法の本質を無理解のまま時の流れにまかせることだ。どんなにすばらしい憲法でもその国民のレベル以上にはなれない」と訴えていました。

枝野衆院議員の憲法の話は初めて聴きました。冒頭の「議員には法律をつくる権限が与えられている」という言葉、地方議員としては重要な言葉だと受け止めました。そして、「権力を持っている側は、好きにやりたいという本能を持っている。それをしづめるのが憲法だ」という指摘も重く受け止めました。



【カタバミ】カタバミ科の多年草。漢字で「片喰」と書きます。吉川区赤沢の道端で見かけました。繁殖力が旺盛で、あっという間に増えます。特徴の1つはハート形の3枚の葉っぱ。花は黄色、春から秋まで咲きます。花言葉は「輝く心」「喜び」「母のやさしさ」などです。写真は8日、撮影しました。

地域自治めぐり質問相次ぐ

頸城希望館で議会報告会・意見交換会

市議会主催の議会報告会・意見交換会が8日、頸城区の希望館で行われました。報道関係者や議員、市役所職員を除くと参加した市民は9人でした。

議会報告会では、名立区から参加した市民が、「起業などをして頑張っている若い人もっと支援の手を差し伸べてほしい」と訴えました。

また、意見交換会では、総務常任委員会が進めてきた地域自治、地域自治区などの提言づくりに質問や意見が集中し、「13区と15区の違いをどう認識しているのか」「合併後の検証をしながら、どういうふうな市にお願いしていくか」について、「行政が地域活動支援事業を無くすというのは時期尚早だ」などの声が出ました。



はしづめ法一の活動レポート

No.2060 2022.5.15
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見たある記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第七〇七回

家に帰りたい

大きく心を揺さぶられた時がやってきたのは、通夜式後のお斎(とき)が終わり、田中家の控室で叔父の思い出を語り合っただけのことでした。

シゲルさんが突然言ったのです。「親父が後生寺の家に連れて行ってもらった写真があるんですよ」

一瞬、耳を疑いました。叔父が柿崎区芋島のグループホームにお世話になってから、自分の家に戻ることはもちろんのこと、自分の家の現実の姿を見ることは一度もなかったと思っていたからです。「えーっ、後生寺の家を見たことがあったの?。その写真、おれにも見せよ」

そうお願いすると、シゲルさんは奥の部屋に行き、何枚かのスナップ写真を持ってきました。歩きながら写真を見て、「これです」と言って渡してくれたのは、まだ新しい写真でした。

写真はグループホームの送迎用ワゴン車の中なのでしょうが、左側に大きく叔父の後ろ姿が写っています。叔父は手を合わせていました。その叔父の視線の先にあるのは叔父の家の玄関でした。グループホームのみなさんが叔父の願いに添えて、後生寺の家に連れていかれたのです。

その様子が確認できてすぐ、涙があふれそうになりました。「いかったねー。何度か家を見せてもらったの?」と尋ねると、シゲルさんは「この時の一度だけです」と答えました。

いったい、いつ頃の写真だろうと思っていま一度見ると、右下に撮影日時が入っていました。二〇二一年七月二十七日、一五時一五分。なんと、今年の夏に叔父は自分の家に連れて行ってもらったのです。

この写真をめぐり、一緒にいたイトコたちと話になりました。「父ちゃん、車から降りたんかねえ」「降りないと思うよ。降りたら、どっかに

しがみついて帰らないと言っただけさ」「そうだよ。降りたら帰らないよ」

新型「コロナウイルス」感染症が流行する前、私は、だいたい三か月に一回は叔父を訪問することにしていました。訪問するたびに、叔父は「ゼンマイ探りに行かなきゃならん」などと言っては後生寺の自分の家に帰る話をしました。

叔父の願いを聞き、一度は叶えてあげたいと思っていましたが、踏み切れませんでした。叔父の性格からして、連れていけば、「もう施設に帰らない」と言いだすかもしれない、そう思ったからです。

関東にいるイトコたちが帰省して叔父の施設を訪問したとき、一番切なかつたのは、叔父は迎えに来てもらったと思い、身の回りのものを風呂敷などにつつんで帰り仕度をはじめることだったと言っていました。ですから、イトコたちも叔父を家へ連れていくことはなかつたのです。

叔父が柿崎区のこのグループホームにお世話になったのは平成二九年九月からです。ですから、叔父は五年弱にわたって、「家に帰りたい」という願いを抑えていた、そう思っていたのです。

でも、施設のスタッフのみなさんは、昨年、叔父の願いを叶えてくださったので、生きていくうちに、自分の家に一度は帰れたのです。叔父はどれほどうれしかったことでしょうか。叔父が手を合わせていたのは、家の仏壇のなかでひとり留守番をしていた叔母にたいしてだと思えますが、施設のみなさんへの感謝の気持ちの表現でもあったと私は思いました。

葬儀の翌日、荷物整理のため、施設の叔父の部屋に入って、もう一度びっくりにしました。叔父はいつでも家に帰れるように、いくつもの大きな袋のなかに身の回りの物のほとんどをしまいこんでいたのです。私は、やっとのこころで涙を抑えました。

川合徹人さん、チャンピオン大会で熱唱



「NHKのど自慢チャンピオン大会2022」が4日に行われました。上越市の川合徹人さんは、さだまさしの『奇跡』を熱唱、透き通った伸びのある歌声を披露してくださいました。今回の出場を機に上越市を歌で盛り上げてくださると確信しています。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	4月26日(火)	5月10日(火)
上越南消防署	0.050	0.053
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.043	0.043
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.047	0.043
名立分遣所	0.053	0.060
高士分遣所	0.047	0.040

三八祭り

5月3日、直江津の三八祭りへ。正直言って、これまで「三八祭り」という祭りがあることを知らないでいました。また、市(いち)の通りにイベントに使える広場があることを初めて知りました。地元の人たちが盛り上げる活動が行われているのは素晴らしいことです。太鼓の演奏を聴いて、市を離れました。



春よ来い

第七〇七回

家に帰りたい

大きく心を揺さぶられた時がやってきたのは、通夜式後のお斎(とき)が終わり、田中家の控室で叔父の思い出を語り合っただけのことでした。

シゲルさんが突然言ったのです。「親父が後生寺の家に連れて行ってもらった写真があるんですよ」

一瞬、耳を疑いました。叔父が柿崎区芋島のグループホームにお世話になってから、自分の家に戻ることはもちろんのこと、自分の家の現実の姿を見ることは一度もなかったと思っていたからです。「えーっ、後生寺の家を見たことがあったの?。その写真、おれにも見せよ」

そうお願いすると、シゲルさんは奥の部屋に行き、何枚かのスナップ写真を持ってきました。歩きながら写真を見て、「これです」と言って渡してくれたのは、まだ新しい写真でした。

写真はグループホームの送迎用ワゴン車の中なのでしょうが、左側に大きく叔父の後ろ姿が写っています。叔父は手を合わせていました。その叔父の視線の先にあるのは叔父の家の玄関でした。グループホームのみなさんが叔父の願いに添えて、後生寺の家に連れていくことになったんです。

その様子が確認できると、涙があふれそうになりました。

「いかったねー。何度か家を見せてもらったの?」と尋ねると、シゲルさんは「この時の一度だけです」と答えました。

いったい、いつ頃の写真だろうと思っていま一度見ると、右下に撮影日時が入っていました。二〇二一年七月二七日、一五時一五分。なんと、今年の夏に叔父は自分の家に連れて行ってもらったのです。

この写真をめぐり、一緒にいたイトコたちと話になりました。

「父ちゃん、車から降りたんかねえ」「降りないと思うよ。降りたら、どっかに

しがみついて帰らないと言っただけさ」「そうだよ。降りたら帰らないよ」

新型「コロナウイルス」感染症が流行する前、私は、だいたい三か月に一回は叔父を訪問することにしていました。訪問するたびに、叔父は「ゼンマイ探りに行かなきゃならん」などと言っては後生寺の自分の家に帰る話をしました。

叔父の願いを聞き、一度は叶えてあげたいと思っていましたが、踏み切れませんでした。叔父の性格からして、連れていけば、「もう施設に帰らない」と言いだすかもしれない、そう思ったからです。

関東にいるイトコたちが帰省して叔父の施設を訪問したとき、一番切なかつたのは、叔父は迎えに来てもらったと思い、身の回りのものを風呂敷などにつつんで帰り仕度をはじめることだったと言っていました。ですから、イトコたちも叔父を家へ連れていくことはなかつたのです。

叔父が柿崎区このグループホームにお世話になったのは平成二九年九月からです。ですから、叔父は五年弱にわたって、「家に帰りたい」という願いを抑えていた、そう思っていたのです。

でも、施設のスタッフのみなさんは、昨年、叔父の願いを叶えてくださったのです。生きているうちに、自分の家に一度は帰れたのです。叔父はどれほどうれしかったことでしょうか。叔父が手を合わせていたのは、家の仏壇のなかでひとり留守番をしていた叔母にたいしてだと思えますが、施設のみなさんへの感謝の気持ちの表現でもあったと私は思いました。

葬儀の翌日、荷物整理のため、施設の叔父の部屋に入って、もう一度びっくりにしました。叔父はいつでも家に帰れるように、いくつかの大きな袋のなかに身の回りの物のほとんどをしまいこんでいたのです。私は、やっこのこついで涙を抑えました。

吉川区地域協、「杜氏の郷」民営化で注文

吉川区地域協議会が4月28日、開催されました。この日は本年度の地域活動支援事業や「地域独自の予算」、(株)よしかお杜氏の郷などをめぐって活発な議論が交わされました。

注目したことの1つは、(株)よしかお杜氏の郷民営化に関する意見書が提出されることになったことです。

新聞報道などで明らかにされた

ように、上越市は吉川区にある(株)よしかお杜氏の郷の経営が厳しいとして、民営化方針を打ち出し、この秋までに譲渡先を公募するとしています。

意見書では、譲渡先の選定に当たっては、「吉川区自慢の酒米や尾神岳の伏流水を使用し、吉川杜氏の匠の技にこだわり、地域のつながりや設立の歴史を守っていただくなど社会的な貢献が見込める企業を吉川区住民は熱く希望しています。利益最優先の企業に譲渡されることはあってはならない」「配慮を」と訴えています。私も地域協議会のこの意見書の趣旨が実現されるよう頑張ります。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	4月26日(火)	5月10日(火)
上越南消防署	0.050	0.053
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.043	0.043
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.047	0.043
名立分遣所	0.053	0.060
高士分遣所	0.047	0.040